

# さんかく しょう

性別も年代もバラバラの4人に、「性別」「仕事」「家庭」について語ってもらいました。



**橋本さん**▶ 介護の仕事をしていましたが、妻が「ずっと働き続けたい」と言ったので、長女の誕生を機に私が退職して、妻の実家であるいなべに移り住み、専業主夫になりました。平日、娘に抱っこひもを付けて近所を歩いていたら、年配の人に「仕事をせずに、いつまで遊んでいるんや」と声をかけられたことがあります。自分の性別が違っていたら、かけられた言葉も違っていたのかなと思います。



**畑中さん**▶ 私は愛知県で仕事をしていましたが、結婚を機に退職して、いなべに来ました。漠然と、結婚したら「家に入る」と考えていました。仕事を辞めて、家事を担っていた時、社会から切り離された感覚になったのを覚えています。ふと、「あのまま仕事を続けていたらどうだったかな」と考えたことも。家族を大切にしながら、自



分の得意を生かした仕事をしようと思い、整理収納サービスを始めました。

**岡さん**▶ 私は保健師として、育児中の母親と関わった中で、「社会から切り離されて、孤独を感じる」という声を多く聞きました。反対に、家庭の中にいるのが好きと感じる人もいます。「こうであるべき」という決めつけは、誰もが苦しくなります。おのの性格に合わせた、多様な家庭のあり方や働き方がもっと広がってほしいですね。



**藤井さん**▶ 「女性が仕事をして、男性が家事をする」ことも、これからの社会では珍しくなくなるでしょう。それを支えるためには、病児保育や学童保育の充実など、性別に関係なく、誰もが安心して働き続けられる社会を作らなければならないと思います。



**畑中さん**▶ 「お母さんだから家事をする」というのは違うのでは、と思ったので、洗

仕事や家庭の中で、性別による固定的な役割の決めつけで戸惑いを感じた経験はありますか？ 今月号では、6月23日～29日の男女共同参画週間に合わせて、性別に関わらず、個性や能力を発揮できる社会に向けて何ができるのか考えます。 岡 人権福祉課 ☎ 86-7815



濯物をたたむのをやめてみたところ、いつしか夫や息子がたたむようになりました。息子には、「家事は性別に関わらず、誰がやってもいいんだよ」と伝えていきます。私は、「家事を手伝う」という言葉がしっくりきません。家事は共有するもの。こういう考え方が当たり前になってほしいです。

**橋本さん**▶ 育児も性別に関わらず、両方がするものだと思います。長女の育児の時、男性トイレにおむつ替えの台が無くて非常に困りました。ママ友と話していても、子どもが発熱した時に仕事を休むのは母親だけだ、と不満を聞きます。「育児は女性がするもの」という性別による固定的な役割意識の表れだと思います。男性はキャリアを維持し続けるけど、「女性は仕事を離脱して育児する」という考え方は変わってほしいです。



**藤井さん**▶ 昔は、仕事を休むと「自分の席がな



くなる」という考えがあり、男性が育児休暇を取得するのは難しいと感じることもありました。今は、しっかり育休を取り、仕事を人に任せることが大切。そのためには、職場の上司の理解が必要です。上司になる人には、女性特有の体の不調があるという知識を持っていることも大切です。体の仕組みが違う以上、女性保護の観点で理解が必要だと思います。

**岡さん**▶ 私が就職した時は、女性は大きな方針を決める会議に出席せずに、お茶を出したら席に戻ってくるという時代でしたが、その時代の人たちが管理職にチャレンジしてくれたから、私の世代も管理職にチャレンジできています。社会の認識は少しずつ変わっていきます。性別、年齢、既婚未婚、子どもがいるいない、障がいのあるなしに関わらず、一人一人が自分の良さを発揮できる社会になってほしいですね。

## さんかく トーク



▲ 橋本 英明 さん

結婚を機に退職後、家事育児を担う。2年前に自宅でウクレレ教室を始める



▲ 畑中 奈緒 さん

結婚を機に退職後、育児の傍ら資格を取得。5年前に整理収納サービスを始める



▲ 藤井 浩二 さん メシェレいなべ副会長



▲ 岡 真水 さん いなべ市福祉部長 兼福祉事務所長



# 多様な働き方に変革。あなたは、どう参画？

株式会社神戸製鋼所 大安製造所



他人と比べない

刀根 渉 さん  
2005 年に入社。妻と 6 歳  
の息子と 0 歳の娘と暮らす



一人で背負わない

村上 侑嘉子 さん  
2007 年に入社。夫と 4 歳  
と 2 歳の娘と暮らす

株式会社デンソー 大安製作所



チャレンジしたい

小田 由紀 さん  
1990 年に入社。夫と 19  
歳の娘と暮らす

## 「家事への意識」が変わった

1 人目の育児の時に、妻の負担の大きさを感じました。夫婦ともに実家が遠かったこともあり、2 人目の子が生まれるときには、育児休業を取得しようと決めていました。6 カ月の育児休業中は、上の子の世話と食事や洗濯などの家事を担当。それまで、「家事は簡単だろう」と思っていたのですが、やってみると、一つ一つは簡単でも、終わりが無いことに気が付きました。

2 人目の子の初めて話した言葉が「パパ」だったときは、すごくうれしかったですね。休業しようか迷っている人は、「あの人は育児休業しなかった」などと他人の状況と比べずに、自分の家族のことを考えて、育児休業を取得してほしいと思います。

## 「できることからでいい」と思うように

2 年前に育児休業から復職し、短時間勤務を利用しながら勤務しています。復職してからは、特に効率を考えながら業務に取り組むようになりました。それでも、「時間が足りない」と日々、感じています。時間内に全ての業務はできないので、「できることからでいい」と思うようになりました。全てを一人で背負い込みすぎないように、同僚と協力し合っています。

新型コロナウイルスがまん延した時に、娘の通っている保育園がたびたび休園になりましたが、在宅勤務制度に助けられました。出勤できなくても、家で同じように仕事のできたので、ありがたかったですね。

## 「仕事が好き」という気持ちが働く原動力

私が班長になった時は、周りに女性の班長がなくて、戸惑いました。年上の異性の部下ができて、伝え方が難しいと感じましたが、コミュニケーションを取っていくと、性別も年齢も関係ないと思うように。日頃からコミュニケーションを取り、働きやすい職場環境に取り組んでいます。

私は仕事が好きです。だからこそ、フォークリフトに乗るなど、何事にもチャレンジしてきました。娘が小学生の時に、会社見学の取り組みを利用して、私の職場を見てもらいました。その後、大きくなった娘から「お母さんの頑張りを知っているよ」と言ってもらえた時は、仕事を続けてきて良かったと思えた瞬間でした。

## 上司から 機械加工室係長 高橋清貴さん

当室では、初めての男性の育児休業取得でしたが、互いにカバーし合おうという意識がありました。休業中、彼の部下が積極的に業務に取り組む姿が見られ、成長の機会になりました。



共働きが当たり前の社会で、家事や育児の共同参画は不可欠だと思います。  
◀高橋さん(左)と刀根さん(右)

## 上司から 安全環境室長 澤田洋樹さん

村上さんの「こうしたい」や「こうした方がいい」などの意見からは、新しい気付きをもらえます。

育児以外でも介護や病気などで、誰にでも短時間勤務が必要になることが生じます。能力がある人には、働き続けてほしいので、制度の利用しやすい環境が大切です。

▶村上さん(左)と澤田さん(右)



## 部下から 物理管理室 伊藤隆さん

小田さんは、部下に元気がないと、すぐに気が付き、優しく声をかけます。常に働きやすい雰囲気を作ってくれるので、職場のみんなが「楽しい」と言います。家庭と両立させながらも、仕事に打ち込む小田さんの姿を見て、自分も「頑張らないと」と励みになります。



◀小田さん(左)と伊藤さん(右)



刀根さん▶1. 職場で2. 上司と村上さん▶3. 職場で4. 上司と小田さん▶5. 職場で6. 班員と



# 男女共同参画社会の実現は、誰もが「自分らしく生きる」ために必要

「自分らしく生きる」ためには、何が必要なのでしょう。  
いなべ市男女共同参画推進委員会長を務めた東福寺一郎さんに話を聞きました。

## 男女共同参画社会は、みんなにとって生きやすい

男女共同参画社会という言葉は、とても堅苦しいですね。女性のためのものという認識があるかもしれませんが、男性のためでもあるんです。男性も、「強く」「男らしく」「リーダーシップを取らなければ」という認識の中で生きることは負担です。男女共同参画社会とは、一人一人が「自分らしく生きていく」ための取り組みです。しがらみから解放されて、生きがいを持って生きることは、性別や年齢に関わらず、みんなにとってメリットがあるのです。

## 大切なことは、相手を「否定しない」こと

ただ、じっと黙って待っていても、自分らしく生きることは実現できません。現状を変えるのに大切なのは、「声をあげる」ことです。そして、もっと大切なのは、意見を「否定しない」環境づくりです。意見が出た時、自分の価値観で他者を否定してはいけません。職場の中でも、家庭の中でも、地域の中でも、相手の言葉を聞いて、共感して、受け止めるという姿勢を一人一人が持てば、声をあげやすくなります。考えや価値観が異なる人の存在も認めて、いかにその人たちを含めて、「共存」していくか。共存

していくためには、生きづらさを感じている人がいないかを確認していく意識が大切です。

## 無意識の刷り込みはありませんか？

私は三重短期大学に勤めていた時に、学生から「本当は4年制の大学に進学したかった」という声を聞きました。「女性は短大」という方針を持った親がいたためです。また、自然科学分野に進学する女性の割合も、日本は他のOECD（経済協力開発機構）加盟国に比べて低いです。子どもたちへ、刷り込みのような形で「男性は理系」「女性は文系」という意識づけが、少なからず影響しているのだと思います。

## 家庭や職場で、学校教育の効果が薄れる危険が

令和3年の市民アンケート調査では、「学校教育の場」においては、男女平等が実現していると答える人が最も多くいました。一方で、「家庭生活」や「職場」では、半数以上の方が「男性優遇」と答えました。家庭の中や就職した先で、男女共同参画推進に反することを言われると、学校教育の効果が薄れます。無意識の刷り込みによって、個人の能力や生き方の選択の幅を狭められる可能性があるので、注意が必要です。

## 決して難しいことではない

男女平等の阻害要因に、政治分野での女性参画の遅れがあります。地域活動や市の審議会に女性が変わり、方針決定の場に参画することはとても重要です。難しいと感じる人もいるかもしれませんが、決して難しいことではなく、互いが充実して生活するために必要な仕組みであることを理解しましょう。



いなべ市男女共同参画推進委員会長

東福寺 一郎さん

元三重短期大学学長  
平成28年には、「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

もっと知ろう

## フレンテみえで

男性講座「パートナーと生きる“更年期”  
～CHANGE of LIFE のススメ～」

更年期について楽しく学びながら、互いを支え合うパートナーシップを深めませんか。

- ・日時 7月22日(土) 13:30～15:30
- ・場所 フレンテみえ(津市一身田上津部田1234)
- ・定員 100人程度
- ・対象 テーマに関心のある男性とそのパートナー
- ・費用 無料
- ・申込方法 申し込みフォームから  
申し込みフォーム▶



## 図書館で

「自慢話でも武勇伝でもない「一般男性」の  
話から見た生きづらさと男らしさのこと」



清田隆之著  
扶桑社

妻に暴力を振るった経験、孤独と非モテに苦しんだ過去…。一般男性に、男としての「生きづらさ」を聞いたインタビューと論考。

「82年生まれ、キム・ジョン」



チョ・ナムジュ著  
斎藤真理子訳  
筑摩書房

キム・ジョンの半生を克明に振り返り、女性が出会う差別を描き絶大な共感を得たミリオンセラー。

Q 「参加」ではないの？「参画」なの？

A 「参画」には大切な意味があるんです

似ている言葉に「参加」がありますが、「参加」は行事などに加わることで、「参画」は物事の計画に加わることです。大切なことを決めたり、実行したりするときに、性別に関わらず、平等に意思決定のできる社会を目指そうという意味があります。



いなべ市人権福祉課  
星原 博生

Q なぜ取り組む必要があるの？

A 選択肢を増やして誰もが輝くためです

性別による固定的な役割の決めつけによって、力を発揮できていない人がいます。生物学的な性に違いがあると認めた上で、誰もが人権を尊重され、一人一人が自分らしい生き方を送れるように、選択肢を増やすことが大切です。



自分らしく  
輝きましょう

Q いなべ市の状況は？

A 新たな指針を策定しました

令和3年に実施した「男女共同参画に関するアンケート」の調査結果を公表しています。今年の3月には、「いなべ市男女共同参画第4次推進計画」を策定しました。さまざまな目標値を設定して、誰もが互いに認め合うまちを目指しています。

調査結果はこちら▼



市の計画はこちら▼



## 「さんかく」しよう

「参画」に親しみを感じてもらえるように、今回、特集のタイトルを「さんかく」と表記しました。「さんかく」の第一歩は、身近な人と性別について話し合うことです。そのときに大切にしたいのは、自分の意見を言うことと、相手の意見を否定しないことです。難しく捉えずに、気軽に、身近な人と一緒に「さんかく」してみませんか。